

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和4年度研究開発実施報告書

科学技術イノベーション政策のための科学
研究開発プログラム

「感染症対策と経済活動に関する統合的分析」

仲田泰祐
東京大学大学院経済学研究科 准教授

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 実施内容・結果	2
2 - 3. 会議等の活動	3
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	4
4. 研究開発実施体制	4
5. 研究開発実施者	5
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	6
6 - 1. シンポジウム等	6
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	8
6 - 3. 論文発表	9
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	9
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	9
6 - 6. 知財出願	10

1. 研究開発プロジェクト名

感染症対策と経済活動に関する統合的分析

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

- リアルタイムの政策分析に利用できる感染抑制と経済活動の統合的シミュレーションモデルを開発する
- 上記のモデルをわかりやすく記述し、政策現場で使いやすいコードを提供する
- 政策立案に関わる人々にワークショップ等を通じてモデル分析の応用例を解説し、次にパンデミックが発生した際、迅速に EBPM に基づく政策を実行できるよう準備する
- ワクチンの最適配分戦略や、コロナショックが各産業に与えた影響、都道府県別の感染抑制に対する経済コストの定量化、GoTo キャンペーンの効果等の事後検証を行い、将来に向けた改善点を追究する
- 事後検証の結果を広く一般の市民にも発信し、将来起こりうる危機に対して議論の幅を広げる

2 - 2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

研究開発の実施項目	2021年度 (6ヵ月)	2022年度 (12ヵ月)	2023年度 (12ヵ月)	2024年度 (12ヵ月)
数理モデル分析（感染と経済の統合的モデル、感染シミュレーションモデル）	←			→
コロナ危機の社会経済への影響		←		→
コロナ禍における政策の効果検証	←			→
まとめ				←

- 「感染と経済の統合シミュレーションモデル」だけでなく「感染動向に関するシミュレーションモデル」も多数行った。したがって、両者を含めた「数理モデル分析」という整理をすることが有用だと考える。
- 「数理モデル分析」にも「コロナ禍における政策の検証」にも該当しない「コロナ危機の社会経済への影響の実態把握」に関する分析も多々行っているため、「コロナ危機の社会経済への影響」という項目を追加した。
- 「産業別のショックの推定」に関しては追及しないこととしたため削除した。「ワクチン接種シナリオ分析」は数理モデル分析の一部と整理する。「データ収集、コーディング」は数理モデル分析、

「コロナ禍における政策の効果検証」に含まれるものとする。

- 政策コミュニケーション・科学コミュニケーションに関しても多数のレポート、論文、書籍等を執筆したが、それらは「コロナ禍における政策の効果検証」の一部と整理する。

(2) 各実施内容

数理モデル分析

- 様々な分析を行った。多数のレポート・研究論文に取り組んだ。
- 2022年度以降には、リアルタイムに統合的なモデル分析が必要とされることはなくなった。統合的なモデル分析は将来のパンデミックに役立つ知見を提供するために学術的なレベルで継続する。
- 2022年度には47都道府県の病床見通しツールの開発・運用に力点をおいた。

コロナ危機の社会経済への影響

- 様々な分析を行った。多数のレポート・研究論文に取り組んだ。

コロナ禍での政策効果検証

- 様々な検証を行った。多数のレポート・研究論文に取り組んだ。

(3) 成果

<https://covid19outputjapan.github.io/JP/resources.html>

<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/category/research/paper/>

<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/category/research/report/>

上記URLに記載されているように多数のレポート・研究論文を発表した。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

全ての項目において、様々な分析を行った。いくつかの分析は様々なメディアで紹介された。また、2022年7月のNHK日曜討論出演を代表に何回かのTV出演を通して研究結果を一般の方々に伝えた。

また、政策コミュニケーションに関して示唆があるであろう「コロナ危機、経済学者の挑戦」という書籍を2022年9月に発刊した。

2023年度以降も分析と発信に取り組む。

2 - 3. 会議等の活動

2022年5月11日：厚労省アドバイザーボード

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000937665.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000937666.pdf>

2022年7月7日：東京都モニタリング会議

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/021/822/92/20220707_08.pdf

2022年7月13日：厚労省アドバイザーボード

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000964718.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000964719.pdf>

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

2022年5月11日の厚労省アドバイザーボードで47都道府県病床見通しツール発表し、その後、自治体向けにツールの使用法を説明するZoom Mtgを行った。

4. 研究開発実施体制

○＜研究開発実施者＞

氏名	所属	専門	役割
仲田泰祐	東京大学	金融政策	統括、発信
藤井大輔	東京大学	国際貿易、サプライチェーン	数理モデル分析
千葉安佐子	東京財団	マクロ経済学	コロナ危機の社会経済への影響
小島健	創価大学	マクロ経済学	数理モデル分析
高久玲音	一橋大学	医療経済学	コロナ危機の社会経済への影響、政策効果の検証

上記の研究者の他に下記の協力者が想定されている。

＜研究協力者＞

氏名	所属	専門	役割
大竹文雄	大阪大学	行動経済学	プロジェクト全体への助言
小林慶一郎	慶應義塾大学、東京財団	マクロ経済学	プロジェクト全体への助言
國谷紀良	神戸大学	数理感染症	数理モデル分析への助言

- 楡井誠氏、長沢賢一氏、久保田荘氏は2022年度以降はコロナ分析以外の研究に集中することとなった。
- 2022年度には千葉安佐子氏、高久玲央氏と様々な共同研究を行った。彼らとの協力関係は今後も継続予定

(1) 「数理モデル」グループ

仲田泰祐（東京大学大学院経済学研究科、准教授）

(2) 「コロナ危機の社会経済への影響」グループ

仲田泰祐（東京大学大学院経済学研究科、准教授）

(3) 「政策効果検証」グループ

仲田泰祐（東京大学大学院経済学研究科、准教授）

5. 研究開発実施者

「数理モデル」グループ（リーダー氏名：仲田泰祐）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
藤井大輔	フジダイスケ	東京大学	経済学研究科	特任講師
小島健	オジマタケン	創価大学	経済学研究科	講師
國谷紀良	クニヤトシカズ	神戸大学	システム情報 学研究科	准教授

「コロナ危機の社会経済への影響」グループ（リーダー氏名：仲田泰祐）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
高久玲音	タカクレオ	一橋大学	経済学研究科	准教授
千葉安佐子	チバアサコ	東京財団		研究員

「コロナ禍における政策の効果検証」グループ（リーダー氏名：仲田泰祐）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
藤井大輔	フジダイスケ	東京大学	経済学研究科	特任講師

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2022 年9月 9・10 日	コロナ政策研究会	仲田泰 祐	名古屋	約30名	コロナ政策に関する研究を行っている様々な分野の研究者を集めてワークショップを行った。

— | — JR GATE TOWER CONFERENCE

会議室のご案内 2022年 9月 11日 (日)

第1回コロナ政策研究会	9:00~18:00
会場： 会議室07~09	仲田 泰祐



6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

「コロナ危機、経済学者の挑戦」(日本評論社)

(2) ウェブメディアの開設・運営

「感染症対策と経済活動の両立」

<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/>

2022年7月

(3) 学会(6-4.参照)以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

2023年2月6日: 関西健康・医療創成会議シンポジウム

<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/policy-analysis-51/>

2022年12月14日:

<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/policy-analysis-44/>

ESRI International Round-Table: Post COVID Economy and Society

2022年12月15日:

<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/policy-analysis-45/>

ESRI International Conference: Post COVID Economy and Society

2022年9月29日：RIETI BBLウェビナー

https://www.youtube.com/watch?v=gjA_dQnzkZo

2021年度よりも頻度は低下したが、2022年度を通して定期的に一般市民・メディアに向けてZoom説明会を開催した。

6-3. 論文発表

(1) 査読付き

無し。

(2) 査読なし (6件)

<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/category/research/paper/>

<https://www.carf.e.u-tokyo.ac.jp/research/f546/>

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

無し

6-5. 新聞/TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道

日本経済新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA017B10R00C22A2000000/>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE171160X10C22A8000000/>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC078F80X00C22A7000000/>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA269PN0W2A420C2000000/>

NHK

[https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2022/10/story/suicide-](https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2022/10/story/suicide-prevention221003/)

[prevention221003/](https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2022/10/story/suicide-prevention221003/)

https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/mask/detail/detail_38.html

他、多数。

(3) その他

・テレビ出演：NHK・日曜討論、2022年7月24日

<https://www.nhk.jp/p/touron/ts/GG149Z2M64/episode/te/5PQXG64RXX/>

・テレビ出演：NHK・首都圏情報ネタドリ！、2022年7月29日

・テレビ出演：テレビ朝日・サタデーステーション、2022年8月20日

6-6. 知財出願

無し